マグダラのマリアの霊性2
フランソワ•ド•サールと2人のマリア　マグダラのマリアとエジプトの聖マリア

小泉友美 Tomomi
KOIZUMI

目次

マグダラのマリアの霊性２ 1

目次

マグダラのマリアの霊性 2

マグダラのマリアの霊性 2
フランソワ• ド• サールと 2 人のマリア マグダラのマリアとエジプトの聖マリア

17 世紀ユマニズム• デボ運動の中の純粋な愛を体現した愛の使徒マグダラのマリアともう一人のエジプトの聖マリアについて

フランソワ• ド• サール François de Sales (1567-1622 年日本ではフランシスコ• サレジオの名前で知られていますが、ここではフランス語読み) は、1567 年旧サヴォイア公国 (現在フランス) のサール城で生まれました。その当時、カトリックとプロテスタントの間に起こった不和の状態が続いていました。フランソワの父は息子が法律家の道を歩む様に願いましたが、本人は聖職者の道を歩む決心をして、貞潔と祈りの生活を送りました。1594 年にシャブレー (かってサヴォイア公国に存在した、現在のフランスとスイスの国境周辺レマン湖南岸に位置している) に滞在し、4 年間ありとあらゆる危険に見舞われました (狼からの攻撃、刺客から逃げる為に木の上で一夜を過ごした体験等)。このシャブレー地方の宣教にあたり、プロテスタントの住民達と対立状態にありましたが、フランソワはカトリックの教義をわかりやすく解説したパンフレットを住民の家のドア下に滑りこませて、命がけで宣教をして、数年間で数万人に及ぶ住民がカトリックへと改宗しました。フランソワは宣教にあたって、プロテスタント信者を敵とみなさずに、対話を重要視しました。何事も力によってでは無く、すべては愛によって為されると、神の慈悲を説きました。数多くの霊的指導に関わる著作を残しました。1610 年に、女子修道会の聖母訪問会を設立。1622 年にフランス• リヨンで 55 歳で亡くなり、アヌシーに葬られました。1655 年に愛の博士として列聖されました。愛の博士と呼ばれたフランソワ• ド• サールの生きた時代の重要なスピリチュアル運動: ユマニズム• デボ (L'humanisme dévot 敬虔なヒューマニズム運動 1580 年から 1660 年) は、フランス• カトリック寛容的スピリチュアリズムです。キリスト教信仰と人間への信頼を調和させて、人間の内面的な精神生活を高める事で、神との信仰に繋がる愛と優しさをテーマにして、すべての人々の休済を求めました。この愛を求めるスピリチュアリティーは、純粋な愛 Le Pur Amour と言う用語で表現されて、このユマニズム• デボにおいての神秘主義体験は、神との結合、愛そのものとされます。神愛を求める為に、敬虔さ、美徳、観想と言う実践がされました。

ここで紹介します 2 つの著作、まず信仰生活の入門は 1609 年,41 歳の時に出版され、自分のいとこの妻ルイーズ• デュ• シャテル夫人に書簡を通して霊的指導をしていた折の

霊的書簡が文書として出版されたものです。一般の信徒達が日常生活の中で神を愛し、信仰生活を送る為の手引きが、フランス語で優しく簡潔に書かれています。
神愛論は 1616 年に刊行され、フランソワ・ ド・ サールは若い頃に自分は地獄行きが予定されていると信じ、悩み、絶望におちいった時に神をひたすらに愛し、遂に心に平安が訪れた体験が、純粋な愛です。見返りを求めずにただひたすらに、純粋な神にすがり、愛する事を説いています。この 2 つの著作の中で、フランソワ・ ドサールはマグダラのマリアはキリストの愛の使徒として紹介し、また、エジプトの聖マリアを神への愛によって私達の心を包み込む聖女としています。

フランソワ・ ド・ サールにとってのマグダラのマリアはキリストの最も重要な、自分の死からの復活に会い、使徒達に福音を告げた愛の女性使徒として紹介されています。
17 世紀に流行していたマグダラのマリアの伝説にも影響されており、ヤコブス・ デ・ ウォラギネ著作の黄金伝説 Ledenda aurea (1267 年頃に完成) と言う、キリスト教聖人伝が土台となっており、キリストと出会い、キリストと常に福音の旅に同行して、キリストの受難と昇天から 14 年後、他の使徒達と共に舟に乗って南フランスのマルセイユに着き、その後、マルセイユ近くのサント=ボーム山塊内の標高 1147 メートルの洞窟で、30 年間隠遁生活を送りました。
もう一人のマリアは、ただ称賛するしかないキリストの悔悛者としてのエジプトの聖マリアです。黄金伝説によれば、5 世紀に砂漠の隠者として暮らしたとされる聖人で、多くの人はマグダラのマリアとエジプトの聖マリアを同一視しており、エジプトの聖マリアは、若い頃は悔い多き生活をしており、ジュール・ マスネが作曲したタイスの女主人公 (タイスの瞑想曲) のモデルとされます。
29 歳の時、エルサレムへの巡礼において教会に入ろうとしましたが、神の霊が心霊の穢れの為に阻まれ、聖母マリアの聖画に祈りを捧げて、ようやく聖域へと入ってゆく事が出来ました。そして神の声に導かれるままに、ヨルダン川の向こう岸の砂漠において 47 年間 (一説には 30 年間) 誰にも会う事無く、悪霊の誘惑を堪え忍ぶ苦行生活をしました。聖画表現において、このエジプトの聖マリアは痩せこけた顔、ぼろを纏い、肌の色は黒く、長く太い髪に覆われた裸の姿で描かれています。

信仰生活の入門において、マグダラのマリアについての記述は無く、エジプトの聖マリアについて、XVll 章の 132 において、エジプトの聖マリアはただ称賛するしかない存在であり、神の愛によって私達の心を 1 つにすると言います。しかし、XXlV 章の 24 において、私達は心を内へと向け、孤独を愛する必要があるけれど、エジプトの聖マリアの様に砂漠にこもるのでは無く、自分の部屋や庭にこもって、魂を回復させます。

神愛論においては、マグダラのマリアとエジプトの聖マリア、二人についての記述があります。先にエジプトの聖マリアを紹介しますと、XI 章の 898 において、慈愛を通して辛抱強さ、優しさ、謙虚さ、気前の良さを受けたとあります。
神愛論の中で、マグダラのマリアは旧約聖書の雅歌、ルカの福音書、ヨハネの福音書の引用より、最愛の女 (ひと) 、マルタとマリア姉妹、キリストの復活に立ち会った女 (ひ

と) として表現されています。キリストを愛して探し求める女性であり、その愛はむせび泣く事で表現されています。
以下、神愛論におけるマグダラのマリアについてまとめたいと思います。

マグダラのマリアの回心は、Vl 章 165 において、魂が愛を失う機会があっても、神による休済は失われない事。マグダラのマリアも、少しの間、神愛の外にあったけれども、回心によってその魂は神の恩恵を受けとめる事が出来ます。

キリストを探すマグダラのマリアは Vll 章 420 において、マグダラのマリアは旧約聖書内の雅歌に登場する最愛の女 (ひと) と同一視されています。マグダラのマリアはキリストに恋する女 (ひと) として表現され、愛するキリストを探し求めます。

VII 章 489 と XX 章 235 において、ヨハネの福音書 20 章より引用がされており、マグダラのマリアはキリストが墓からいなくなった事で、嘆き、涙にむせび泣き、キリストを探し求めました。その想い、その感情は外へと向かって行きました。マグダラのマリアは、遂にキリストを探して見つけ出し、イエスはマグダラのマリアの前に顕れ、キリストがマリアと声をかけられた事で、マグダラのマリアもまた、先生 (ラボニ) と呼びました。
エチオピアのルビーの引用 (XX 章 235 より) がされ、自然なままの状態では輝きが無いものの、お酢につけると輝き出します。回心へと導く愛は不完全であっても、悔い改めの酢っぱさから完全なものへと向かう事が出来ます。

マルタとマリア姉妹は、ルカによる福音書 10・ 39 より引用がされており、VIII 章 498 において、キリストがマルタとマリア姉妹の家に迎え入れられた事で、キリストの言葉を聞く事でマリアが魂の休息を得られたと言います。ここでは、このマルタとマリア姉妹のマリアがマグダラのマリアと見なされています。
フランソワ・ ド・ サール曰く、キリストの傍らにマグダラのマリアは座り、何も言わず、動きもせず、キリストの言葉をまるで香油瓶の様に受けとろうとしたのでした。このキリストの言葉はまた, 旧約聖書雅歌による (雅歌 5・ 13 唇は百合の花、ミルラの雫を滴らせる) 愛しい人の唇より流れるミルラの一滴一滴が、その心に受けとろれたと言います。

サント=ボームのマグダラのマリアは、XI 章 11 において、マグダラのマリアが 30 年間、南仏の洞窟におり、(サント=ボーム) 1 日 7 回天使に運ばれて行き、共に歌ったとあります。マグダラのマリアが腕を天上へと上げて、観想しており、両眼からは涙が溢れ出るままに。

マグダラのマリアの慈愛は、VIII 章 898 において、慈愛はすべての美徳に勝るもので、マグダラのマリアもこの慈愛を通して、優しさ、謙虚さ、寛大さがあります。

フランソワ・ ド・ サールにとって、マグダラのマリアとエジプトの聖マリアはキリストへの愛に燃え、体現した女性、そして聖女です。

2026 年 10 月 28 日 フランス• アンジェ Angers 平和　祈

マグダラのマリアの霊性2 フランソワ･ド･サールと2人のマリア　マグダラのマリアとエジプトの聖マリア

著　者　　小泉友美 Koizumi Tomomi

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社